

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成22年4月8日(2010.4.8)

【公表番号】特表2004-515245(P2004-515245A)

【公表日】平成16年5月27日(2004.5.27)

【年通号数】公開・登録公報2004-020

【出願番号】特願2002-549720(P2002-549720)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 0 7 K 14/47 (2006.01)

C 0 7 K 19/00 (2006.01)

C 1 2 P 21/02 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

C 0 7 K 14/47 Z T D

C 0 7 K 19/00

C 1 2 P 21/02 C

【誤訳訂正書】

【提出日】平成22年2月8日(2010.2.8)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 2 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 2 3】

実施例12

ファージライブリPhSP-D-1b001の構築

PhSP-D CTL D挿入部分(配列番号61)位置74から76又は73から79(ループ1)及び100から104又は103から104(ループ4)に対応するランダムアミノ酸残基を含有するファージライブリPhSP-D-1b001は、Sfi I及びNot I制限pPhSP-DファージミドDNA(実施例10を参照のこと)20μgを適切に無作為化したループ1及び4領域をコードするSfi I及びNot I制限DNA断片集合体10μgと連結することによって構築する。DNA断片集合体は、3個のループ1DNA断片それぞれと3個のループ4DNA断片それぞれを結合させた9個の組合せ反応物を鋳型として、オリゴヌクレオチドSfi-tag5'-CGGCTGAGCGGCCCAGC-3'(配列番号74)及びNot-tag5'-GCACCTCTGCGGCGCGC-3'(配列番号75)をプライマーとして標準的方法を使用して増幅する。3個のループ1断片のそれぞれは、pPhSP-DファージミドDNA(実施例10を参照のこと)を鋳型として、オリゴヌクレオチドSp-d1oop1afo(配列番号76)、Sp-d1oop1bfo(配列番号77)又はSp-d1oop1cfo(配列番号78)及びSfiSP-D(配列番号64)をプライマーとして1次PCR反応で増幅して、さらにSfi-tag(配列番号74)及びSp-d1oop1-tagfo(配列番号79)をプライマーとして使用したPCR反応で増幅する。3個のDNAループ4断片は、pPhSP-DファージミドDNA(実施例10を参照のこと)を鋳型として、オリゴヌクレオチドSp-d1oop4arev(配列番号81)、Sp-d1oop4brev(配列番号82)又はSp-d1oop4crev(配列番号83)及びNotSP-D(配列番号65)をプライマーとして標準的方法を使用して1次PCR反応で増幅し、さらにSp-d1oop4-tagrev(配列番号80)及

び N o t - t a g (配列番号 7 5) をプライマーとして使用した P C R 反応で増幅する。このオリゴヌクレオチド配列では、 N はそれぞれヌクレオチド T 、 C 、 G 、及び A それぞれ 2 5 % の混合物を表し、 S は C 及び G 5 0 % の混合物を表し、適切に無作為化されたヌクレオチド配列をコードする。連結した混合物を使用していわゆるエレクトロコンピテントな E . c o l i T G - 1 細胞を標準的な方法を使用してエレクトロポレーションによって形質転換した。形質転換した後、 E . c o l i T G - 1 細胞をアンピシリン 0 . 2 mg / mL 及び 2 % グルコースを含有する 2 × T Y - 寒天プレートに入れ、 3 0 で一晩インキュベートした。